ＰＦＳ学習会

学習会ページ特集　対談です。よろしくお願いします！簡単な自己紹介としてお名前とひとことお願いします。

小塚：小塚翔斗です、初めてなんで頑張ります。今日のお昼ご飯はすき家の牛丼です。大盛り。よく食べるんです。

今泉：今泉翔太です。なんだろう、学習会の良さをアピールできるように頑張ります。僕まだ食べてないです。12時出勤なんで。(この時13時)

小塚：学習会でむしゃむしゃ食べてますよ。

お2人はそれぞれ学習会のサポーターを経て、会場責任者も経験し、今ではＰＦＳの新入社員となりましたが、それぞれにおいて変化はありましたか？

小塚：僕は友達の紹介で(学習会サポーターを)始めました。学習支援っていうからには、学習塾に行かないけど、勉強したい子が多いのかなっていうので入りました。でも蓋を開けてみれば居場所としての利用が多いと思いました。

今泉：そこから責任者とか新入社員になった時は変化とがありました？

小塚：会場責任者になってからもう2年目だけど、今年から新入社員にもなって、電話対応する、面談もするで、しかも新しい会場っていうので、身構え方が変わったかな。

今泉：どういうこと？身構えるって。

小塚：ちゃんとその子の進路とか考えるようになった。去年の会場は中3が1人しかいなかったからその子だけ見ていれば良かったんだけど。今年はいっぱいいるから。

今泉：ね、結構いますね。

小塚：そう。だから、その子たちがどういう進路を希望しているか、高3の子がいたら、就職なのか進学なのかっていうのを聞くとか、そういうヒアリングを意識するように変化したね。

小塚：この前もね、テストに向けて不安な教科とその範囲を共有されたんですけど

今泉：そうそう、驚いたのが「テスト来週なんですよ」って言われて笑 いやもっと早く言ってよっていうね。他のみんなもあと1週間2週間って分かって。

今泉：それはもう聞くしかないってね。中3の子とか笑

小塚：**なんなら聞きたくなかったって感じ笑**

今泉さんがサポーターを始めたのはいつですか？

今泉：大学1年生の時なんで、4年前ですね。やってみたらすごい葛藤がありましたね。それこそ勉強する場なのか、居場所なのかっていうのをずっと迷っていたので、勉強をする場であるっていうのも、自分の中では大事にしたいなと思いつつ、居場所も彼ら彼女らにとってはすごい大事なんだろうなっていうのを理解してるので、どの程度、どういうバランスでいけばいいのかなって。

小塚：それこそ会場と、会場責任者で違うね。僕が最初に行った所の会場責任者、山本(大貴)さん。

※山本さん・・・山本大貴さん
現よりそい訪問サポートなごや所属

今泉：はいはいはいはい。

小塚：山本さん、勉強そんなしない。

今泉：あーーー。笑

小塚：ここが(家庭以外の)もう1つの居場所になればぐらいな感じでやってました。

今泉：(会場)責任者で違いますね。

今泉さんが責任者になってからはどんな雰囲気なんですか？

今泉：僕は今、ニコイチなんで。小塚さんと同じ東消防署会場で、僕木曜日で、(小塚が)火曜日なんで**それぞれなんか違ってもいいのかな**と思う反面、共通したところがあってもいいよなで試運転中です。ただ、小塚さんが去年会場責任者やって僕がサポーターで入ってた頃、高校生が多かったんです。高校生が中学生に声かけとか(勉強を)教えたりみたいな、サポーターもそういうことやるんですけど。高校生の子が、「えっ、じゃあそこわからんの。教えてやるよ。」みたいな感じで、先輩風吹かせて。すごいいいなって僕は思って見てたんで、そういう環境になるのはいいなって思います。

ＰＦＳが行う学習会の良さ、これはなんだと思いますか？

小塚：このＰＦＳの学習会は、居場所にも重きを置いてるなっていうのは、いいとこなんじゃないのかなって。

今泉：僕も同じ感じですね。ＰＦＳ学習会で当たり前のように出てる学校の話題とか、恋バナとか、家族がどうこうとか、「ちょっと今ちょっとしんどいんだよね」みたいな話が他の学習支援ではなかったので。**セーフティーネット的な要素っていうのはすごいうちの強みなんだろうなっていう。**ふとした会話から出るような事に対してのセンサーも、サポーターさんたちすごい敏感だし。技量というかテクニックも、とっても強いところなんじゃないかなって。

小塚：ちゃんとコミュニケーションをとってやってるよね。

今泉：そうそう。(サポーターの)普段の積み重ねがすごいですよね。2週に1回とか3週に1回しか入らないのに、「なんでそんな前にした会話覚えてんの!?」みたいな。そういうのが結構頻繁にある。

ＰＦＳ学習会
会場責任者
今泉 翔太

最後に。この対談、学習会の管理責任者である櫻井さんにも聞いてもらいます！

小塚：はい(小声)

今泉：はい笑

小塚：「人間関係はちょっと重くなっちゃうとか、

今泉：「高校選び、ちょっと失敗したかもしれん」みたいな。でも、(学習会では)高校選びから関わりが続いているから)、「こういう思いがあって選んだよね」っていうのをサポーターと喋ってくれているので、「こういうところ楽しみにしてたんじゃないの。」っていうのを再発掘できるんですよね。

それは、時間が、繋がりが、あるからできることなのかなって思います。

小塚：それができるのは強い。

学習会だと、「先生」って呼ばれるの？

小塚：今はショーンですね。

ん？

小塚：**今ショーンとマイケルです。**

今泉：僕マイケルです。

小塚：(今年度)1番最初に責任者が変わったから、「自己紹介するね」って(今泉)翔太に言った時に「初めましてマイケルです。」って言った。

今泉：ふざけたらもうそれがなんかもう定着しちゃって。

小塚：じゃあ俺も。俺ショーンにしようかな。だから「今週今泉いないよ。」って言うと、「え、誰？」「ああマイケルマイケル。」ってなる笑

今泉：あとは結構、高校生になっても来てくれますよね。

小塚：確かに。

今泉：それは特徴なのかなって。

小塚：中学生世代を対象だけど、高校上がってもそのまま来てくれる子も多いなっていうのは。1個のイベントというか、日常の1つとして捉えてくれてんのかなっていう。

それは、中学から高校に上がっても学習会で何を得るために来ているんだろう？

今泉：「居場所」だと思いますよ。「高校生になってこういうことがあって！」みたいな。

中3で卒業しちゃったら終わりではないということだね。

今泉：子どもによっては、高校生になって**大丈夫ですか。**

今泉：ふざけたことは言ってない。

小塚：ふざけたことは言ってない。え、ふざけた方がよかったですか？

今泉：悪口編、今から撮りますか笑

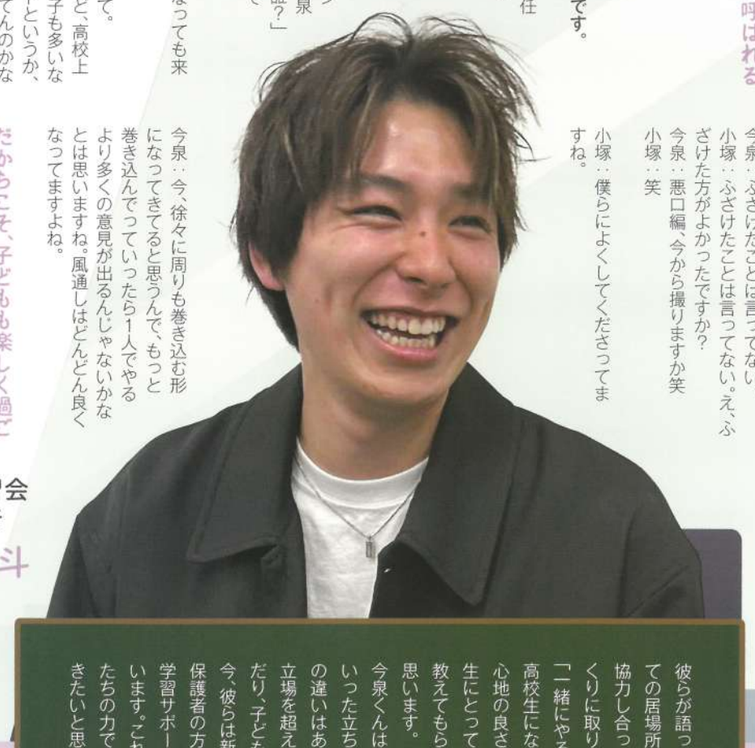
小塚：笑

小塚：僕らによくしてくださってますね。

今泉：今、徐々に周りも巻き込む形になってきてると思うんで、もっと巻き込んでっていったら1人でやるより多くの意見が出るんじゃないかなとは思いますね。風通しはどんどん良くなってますよね。

だからこそ、子どもも楽しく過ごしているんでしょうね。お返事が楽しみです。

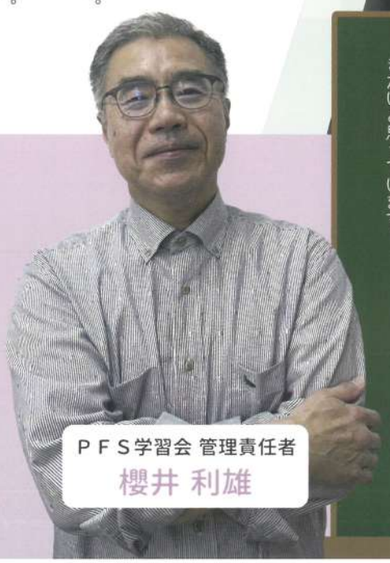
小塚&今泉：笑



ＰＦＳ学習会
会場責任者
小塚 翔斗

○今泉翔太 日本福祉大学社会福祉学部卒業
2020年よりＰＦＳ学習会サポーターとして活動。

○小塚翔斗 至学館大学健康科学部卒業
2018年よりＰＦＳ学習会サポーターとして活動。



ＰＦＳ学習会 管理責任者
櫻井 利雄

彼らが語っていたように、ＰＦＳ学習会は「子どもにとっての居場所」であることを大切にしています。スタッフは協力し合って、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいます。勉強は「やりなさい。」ではなく「一緒にやろうよ。」というスタイルを大切にしています。高校生になっても来てくれる子が多いのは、学習会の居心地の良さを求めているからなのかなと思います。中学生にとっても先輩から高校生活の話を聞けたり、勉強も教えてもらったり、という良い関係性が築かれていると思います。

今泉くんは優しいお兄さん、小塚くんは頼もしい兄貴、といった立ち位置で活躍してくれています。キャラクターの違いはあっても、二人に共通するのは支援するという立場を超えて、子どもたちと一緒に悩んだり、一緒に喜んだり、子どもに寄り添う姿勢を大切にしていることです。

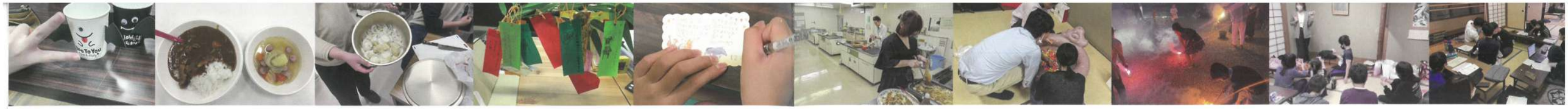
今、彼らは新入職員として、また学習会場の責任者として、保護者の方への対応、会場の子どもたち全体への目配り、学習サポーターさんの育成など、新しい仕事に挑戦しています。これから彼らが壁にぶつかり、悩み、それを自分たちの力で乗り越え、成長していく姿を見守り、支えていきたいと思っています。

ＰＦＳ学習会

（名古屋市中学生の学習支援事業
高校生世代への学習・相談支援事業）

対象：名古屋市内に在住の「生活保護世帯」「生活困窮世帯」「ひとり親世帯」の
経済的に困窮した家庭の中学1年生～中学3年生の児童。
現在高校生世代で、中学生時代に学習支援事業を利用したことがある児童。

お問い合わせ　052-228-0280　担当：櫻井　利雄



あしタネ。のあゆみ

～歴代会場責任者コメント～

「あしタネ。」という名前に込めた思いは、「また明日ね」というシンプルなメッセージに加え、利用する子ども一人ひとりが私たちにとっての「未来(あす)への希望(タネ)」であることへの思い、そして居場所の中で全てを包み込んでいく包含性を示すため、最後に「丸(。)」を入れています。スタート時は自信も無く、不安ばかりでした。子ども達やスタッフと一緒に積み上げてきた何か、そして楽しんだ時間が今のあしタネ。を作ってきたのだと思います。
これからも進化し続けるあしタネ。をワクワクしながら見守り続けていきたいと思います。

第1期 会場責任者 早川 遥

居場所として成立させる為、地域の方々からの協力を仰ぎ、いかに子どもたちに来てもらえるかが大事でした。そして、「誰でも歓迎され、安心してもらい、また来たい」と思ってもらえる雰囲気作りを大切にしました。
利用する子どもたちの中に、家庭環境から一人でいる時間が長い子がおり、話の中で「ずっと同じ本を呼んでいて、国旗を１００か国言える」ということが分かりました。そのことを皆で共有し認め合うことで、自信をつけるきっかけになりました。
子どもたちとの何気ない会話や行動の中から、興味関心を発見し、学校等では見せられない一面も見つけることができました。
私が責任者の頃は「なんでもやってみること」を大切にしていました。地域の市民団体を呼んで、手品を見せてもらったり、多くの年代の方と触れ合ってもらったり。花火大会、ハロウィンイベント、クリスマスケーキ作りなど、季節の行事も実施しました。

第2期 会場責任者 小林 宜正

「なんでこんなに自由なの？」
新しくあしタネ。に入ってきたこどもに聞かれたことがありました。
『ん？』『だってさ、寝てる子がいたり、遊んでる子がいたり、ケンカしてる子いるよ？』『たしかに（笑）』
『怒らないの？』『怒らないなぁ』『なんで？』『そんな必要がないからかな』『なんで？』『なんで？！』『ん～、怒ることがないからだよ』『なんで？』『血が出始めたら止めようかな（笑）』『遅いよ！ねぇ～、ケンカやめなよ～！（こどもの方へ）』
ここはこどもの居場所。こどもの秘密基地。こどもの週一のおうち。わたしたちはただ、こどもの育ちを見守ります。ただ、求めに応じて手を添えます。
ただ、居続けます。
たったそれだけのことをただ、続けてきました。

第4期 会場責任者 吉村 美穂

子どもたちが笑ったり泣いたり、そのままの自分で居られる安心な居場所にしたい、心の安全基地を届けたい、そんな思いであしタネ。を引き継ぎました。親や先生のような縦でもなく子ども同士の横の関係でもないナナメの関係づくりと「ここに居ていいんだ」と思える気持ちのよい場づくりを大切に運営していました。
つらい思いをして学校に行けなくなった子があしタネ。だとみんなと楽しくおしゃべりできるようになった。「家庭環境に悩み将来に不安を感じる」と思いを吐露して気持ちを整理し、進路を考えられるようになった。学校から帰宅して一人自宅で過ごすことが多い子が週一回でも「夜が安心できる」と元気になったなど、一年で子どもたちに前向きな変化がありました。
心の安心安全基地が明日を過ごすエネルギーとなってくれていたら嬉しいです。

第3・5期 会場責任者 笹口 滉平

あしタネ。には、みんながお互いを受け入れ、認め合う優しい雰囲気があります。私が責任者になって間もなく、ある子どもが私を「パンダ！」と愛称で呼んでくれたことが印象的です。（この愛称は笹口の“笹”から連想）それ以来、小学生を中心にパンダの愛称が広まっていき、次第に中学生以上も、イジリの一環でにやにやと笑みを浮かべながら「パンダさん」と呼んでくれるようになりました。これは私自身あしタネ。で受け入れてもらえたと実感できたエピソードです。
お互いに受け入れる雰囲気があるからこそ、みんなが思い思いに過ごしたり、「やってみたい」を言ったり挑戦したりすることが出来るのだと思います。良い意味でのゆるーい空気感をこれからも大切にしていきたいです！
子どもたちの意見がきっかけとなり実現したイベントが『ビンゴ大会』でした。数字が発表されるまでのドキドキの時間が流れ、次の瞬間「ビンゴ～！！」と元気な声が上がり大いに盛り上がりました。仲間に「やってみたい」を提案し、実現可能な方法をみんなで考えて叶えられることもあしタネ。の魅力です。

愛知ＰＦＳ協会は、2024年で10周年を迎えることができました

愛知ＰＦＳ協会は、2024年でまる10年を迎えることができました。
10年を迎えるにあたり、『名古屋みらい高等学院』『アフタースクールＰＦＳ』の生徒・利用している子どもたちを中心に、皆様に楽しんでいただけるようなイベント“ＰＦＳ学園祭※仮称”を実施予定です。
ぜひこの機会に日々活動を支えていただいている皆様に、ＰＦＳの活動や関わっている子どもたちについてより知っていただけたら幸いです。皆様のご来場をお待ちしております。

8/24 土
※10:00～16:00　予定

ご協力・ご支援のお願い

愛知ＰＦＳ協会の活動は、様々な方のご協力やご支援により、充実した活動支援が行えるようになります。
当団体の事業には名古屋市からの助成金を受け実施しているものもありますが、Personal Future Support事業等は完全に個人や法人からの寄付金に頼らざるを得ない状況にあります。今後、一人でも多くの子どもたちや、その保護者に対し、サポートが届けられるようみなさまからのご支援、ご協力が必要です。みなさまからの暖かいご支援よろしくお願いいたします。

金融機関名	ゆうちょ銀行
口座情報	店番 218　口座番号 9433602

詳しくは↓

感想・ご要望

入力フォーム↓

ＰＦＳ広報誌（Vol.9）をご覧いただきありがとうございます。
愛知ＰＦＳ協会では、広報誌のご感想や当団体の活動へのご意見をお待ちしております。
ご協力の程、よろしくお願いいたします。

BRIGHT FUTURE

区切り

コラム vol.9

人生はさまざまな区切りによって形作られる。
その一つ一つが、私たちの成長や変化の瞬間を象徴するものだ。
区切りには、小さなものから大きなものまで多岐にわたるが、どれも私たちにとって重要な意味を持つ。
新しいスタートを切るための区切り、過去を振り返り感謝するための区切り、そして次なる一歩を踏み出すための区切り。
どの瞬間もきっと、私たちの人生を豊かにしてくれるものだと思う。
例えば、卒業式。
これは学生生活という一つの章の終わりを意味する区切りだ。
友人との別れ、親への感謝、新たな未来への期待。
教室に響く「おめでとう」の声、涙ながらに交わす言葉、そして卒業証書を手にしたときの達成感。
これらすべてが、一つの区切りを象徴する感動的な瞬間だ。
卒業という区切りがあるからこそ、私たちは次のステージへと自信を持って進むことができる。
また、仕事の区切りも忘れてはならない。
新しいプロジェクトの開始や、長年勤めた職場からの退職。
これらの区切りは、私たちのキャリアにおいて重要な転機となる。
新たな挑戦への期待と不安、過去の努力への誇りと感謝。
区切りの瞬間は、私たちに自己成長の機会を提供し、未来への希望を抱かせる。
区切りはしばしば別れを伴うものだが、それは同時に新しい出会いや始まりをも意味する。
区切りがあるからこそ、私たちは過去を整理し、新たな気持ちで未来に向かうことができる。
感動はそのプロセスの中で生まれ、私たちの心に深く刻まれる。
区切りを迎えるたびに、私たちは少しずつ変わり、成長する。
それは時に苦しいものであり、時に喜びに満ちたものであるが、そのすべてが私たちを形作る大切なピースだ。
だからこそ、区切りを大切にし、新たな一歩を踏み出す勇気を持ち続けよう。
人生の区切りは、私たちの物語を紡ぐ大切な瞬間なのだから。

一般社団法人 愛知ＰＦＳ協会 代表理事 星野 智生

Gallery